

The way forward

トップインタビュー

各国市場の動向に柔軟に対応しながら、 サステナビリティ経営を一層推進。

第67期上期は、米国CROSS社の事業買収のプラス要因もあり、売上は前年同期比11%増。営業利益は27%増となりました。部門別の売上では、特殊潤滑油部門は米国、インド市場が好調、中国では日系自動車メーカーの稼働率低下の影響はあるものの、自動車生産台数の増加により堅調に推移。一方、自動車生産が一時的にストップした日本や、需要が減速したタイでの売上が伸び悩み、前年同期比並に。ホットメルト接着剤部門も中国でのフィルター需要が回復したものの、全体としては前年同期比並でした。一方、合成潤滑油事業はデータセンター投資の回復やお客様の在庫調整が収束したことで需要が戻り、売上は大幅増。また、素材部門も流動パラフィンの需要が回復したことで増収となりました。

現在はエリアによって景気動向が大きく異なり、市況が読みにくい中ではありますが、当社は第10次中期経営計画に基づき、サステナビリティ経営を着実に進めています。主な取り組みの一つは、環境性能を軸に、お客様のビジネスに多角的に貢献できるMORESCO Green SX (MGS)製品の営業活動の強化。国内だけでなく、中国や東南アジアなどの海外市場でも積極的に展開を図り、MGS製品の2026年度売上比率40%という目標に向け、取り組みを強化しています。また、循環型社会の実現のため、従来製品のリユース、リサイクルを進める活動にも注力しています。現在は国内を中心に難燃性作動液のリサイクル率の向上や再生原料の配合技術の確立と活用を推進していますが、今後、海外製品への展開も順次図っていきます。さらに、本上期はこれまで準備を進めてきた統合報告書を発刊できました。現在の事業環境だけでなく、長期的視点に立った持続的な価値創造に向けた取り組み内容を広くお伝えし、株主の皆様をはじめとするステークホルダーとコミュニケーションを重ねながら、より多くの期待に応えられるMORESCOをめざします。

為替の変動が大きく、原油価格の先行きも不透明な中、第67期下期の事業環境も引き続き予測しづらい状況が続くと思われませんが、市場ごとの経済動向を注視し、見極めながらエリア戦略をアップデート。持続可能な社会の実現と事業の付加価値の向上の両立に向けて、着実に計画を進めていきます。

株式会社 MORESCO

代表取締役社長 CEO 両角 元寿





MORESCOの人材戦略について

重視してきた人的資本経営を進化させ、 ビジネスと人材育成、両面の成長を実現。

MORESCOは、人材戦略に関する基本的な考え方として、“人材育成方針”および“社内環境整備方針”を制定しました。当社の成長の要となる人材をどのように育成し、価値を創出していくのかについてご説明いたします。

取締役 上席執行役員 CFO
藤本 博文



人材戦略のさらなる詳細は
コチラをチェック！

NEWS



「MORESCOグループ 統合報告書2024」を創刊

これまで当社は売上や利益などの財務情報、サステナビリティ課題への取り組みなどの非財務情報を定期的に各報告書やホームページで発信してきましたが、中長期的視点での企業価値創造の考え方、財務・非財務の取り組みを伝えるには至っていませんでした。

そこで、持続可能な社会の実現に貢献するという価値観と、そのための取り組みについてもご理解いただき、MORESCOの将来に期待を高めていただきたいと考え、このたび、統合報告書を創刊しました。株主の皆様をはじめとするステークホルダーと関係を深め、共に社会課題に取り組むためのプラットフォームの一つにしたいと考えています。今年当社の考え方や事業などを幅広く紹介していますが、次号からは特定のトピックを深掘りすることで、挑戦し、進化し続けるMORESCOの姿勢をよりわかりやすくお伝えしていきます。



IR部長
宮本 健太郎

統合報告書の閲覧はコチラ



「持続可能な社会の実現」と「中長期的な企業価値の向上」の 両立のために「新たな価値」を創造する



人材育成方針制定の経緯

多様な人材が集う今だからこそ、 基本の姿勢を改めて共有する。

当社は研究開発型企業として、一人ひとりの知見・ノウハウを強みにオンリーワン製品を世界に届ける、まさしく“人”が礎となって発展してきました。

事業がグローバルに拡大し多様な人材が集まる組織へと変化している中で、「人間性を尊重する職場づくりと、自由な発想によって、新しい価値を創造する」という経営理念にある考え方が、従業員をはじめとするステークホルダーに伝わるように、人材育成方針を制定しました。

社内環境整備方針に関する考え方

全員が安心して働き、 力を最大限発揮できる場所に。

当社を構成する人材がポテンシャルを十分に発揮するには、心身ともに健康であり、適正な評価・報酬のもと、自らがキャリアを展望し意欲的に働き、スキルを高められる環境を整えることが大切だと考えています。そのため働き方改革の継続はもちろん、業務プロセスの見直しなども進めることで、より生産性の高い職場環境を構築。従業員、そしてサプライチェーンの方々も含めた、MORESCOに関わる全ての人が年齢や性別、ライフステージを問わず、能力を発揮し続け、働きがいを感じられる体制を充実させていきます。

人材育成・活用に関する考え方

既存事業と新規事業により価値を高める 境界領域のスペシャリストたる人材を成長エンジンに。

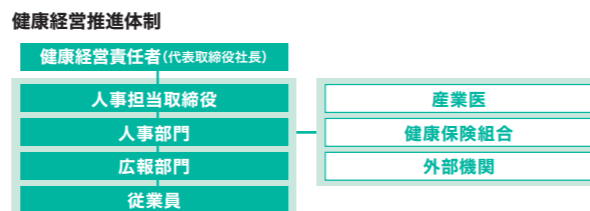
当社が持続的に価値を生み出していくには、MORESCOの未来を牽引できる人材を業務を通じて育成していくことが重要です。“共感力と巻き込む力”“プロフェッショナル志向”“挑戦し続ける姿勢”“自由な発想”の4点を人材に求めるマインドとして設定し、世界における当社の役割をより高い視座からアップデートできる人材育成をめざしています。特に注力しているのは、当社の研究開発力を底上げする、境界領域のスペシャリストの育成です。

例えば、研究開発部門では「研究班活動」と称して、日常業務とは別に、部署の枠を超えて個人の裁量で研究を進められる制度を設けています。先行きの読めない現代においては、新規分野に自発的かつ、意欲的に挑戦できる人材、および企業文化の醸成が不可欠だと考えるからです。現在のビジネスを発展させて将来のビジネスへとつなぎ、継続的に価値を届けるMORESCOをめざして、今後も“人”の育成に重きを置いた経営を進めていきます。

MORESCO 年間トピックス

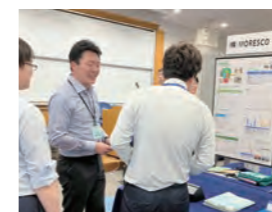
3月 | 健康経営優良法人2024(大規模法人部門) 4年連続認定

健康経営に関する各種取り組みが評価され、優良な健康経営を実践している企業として認定を受けました。当社は、従業員が心身ともに健康であることが、企業の持続的な発展に不可欠であると考えています。このような考えに基づき、従業員の健康促進を経営における重要課題であると捉え、健康経営を積極的に推進していきます。



5月 | 「トライボロジー会議2024春」に 出展しました

3日間で56社、約900名が参加した「トライボロジー会議2024春 東京」に企業ブースを出展しました。バイオマスADEや超高真空用途の潤滑剤を中心に、当社製品を幅広くアピールできました。



7月 | 個人投資家向け説明会を開催しました

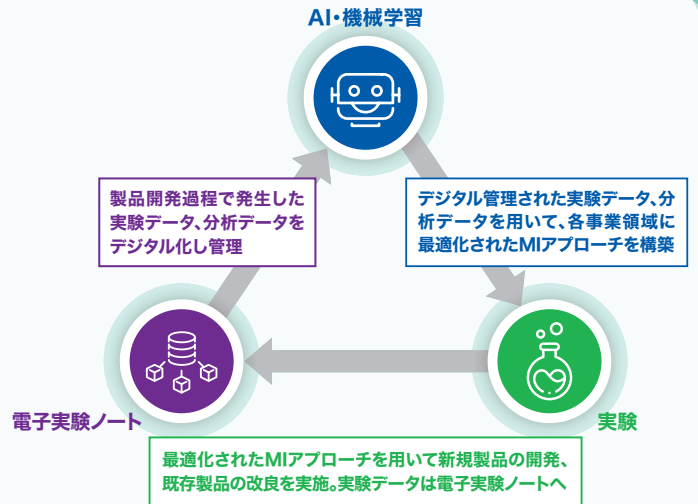
名古屋にて個人投資家向け会社説明会を開催しました。151名の個人投資家の皆様にお集まりいただき、当社の事業内容や業績などについてご質問や応援のお言葉を頂戴しました。



AI活用により、開発力向上へ。

マテリアルズ・インフォマティクスにより、
全社的に製品開発の速度、精度を高めていく。

目まぐるしく変化する業界において、属人的な開発ではニーズに素早く対応できず取り残されてしまいます。従来の研究開発における課題は、各々が行っている実験データが、時間が経つにつれブラックボックス化し、これまで培った膨大な知見をMORESCO全体で有効活用できていなかったことです。そこで当社では、製品開発プロセスで得た実験データをデジタル管理し、それらを新たな製品開発に活用する“マテリアルズ・インフォマティクス(MI)”に力を入れています。先行して電子実験ノートを導入し、全開発部の実験データが電子実験ノートに記録されている状態を当たり前にするのを最重要課題として取り組んできました。そして2024年から、各事業領域に最適化されたMIアプローチを構築するフェーズに移行しています。具体的には、各開発部の担当者がプログラミングや機械学習ソフトウェアなどを使用して、データ解析に基づいた製品開発を行います。すでに製品開発が効率化された事例が上がってきており手応えを感じております。今後もこのプロジェクトを推進させ、世界に高付加価値製品を届ける当社の研究開発力に磨きをかけていきます。



MOLGADCプロジェクト デジタル関連 (D-pro) 次世代事業創出のための取り組みについてはコチラ

左から
末吉 祐介
小西 晋平
藤井 満美子



株式会社マツケンから新ビジネスを創出。

ニーズが高まる「廃水処理」の事業を拡大しながら、
廃液の濃縮技術で新事業を展開。

当社はMORESCOグループの環境事業専門会社として、環境保全に貢献する廃水処理(設備、処理剤)、洗浄(設備、洗浄剤)関連商品を取り扱っています。近年、環境意識が高まる中で、工場からの廃液・廃水を減らしたい企業が増加しています。MGS製品にも認定されている当社装置は、廃液を濃縮し、廃水量を10分の1~20分の1に抑えられるため、環境貢献と廃水処理コスト削減を求める多くの企業で導入が進んでいます。現在の主なお客様はダイカスト業界や金属加工業界ですが、今後は印刷メーカーなど別分野にも取引先を広げ、さらに日系企業が進出する東南アジアなどへの海外展開も検討中です。

また、独自技術を活かした、これまでとは全く異なる領域での新規ビジネスも始まっています。例えば昨年度より岡山県真庭市のバイオ液肥濃縮施設に、循環型農業政策の一環として、生ゴミやし尿を処理し濃縮する装置を導入済み。ゴミの排出量を減らせるだけでなく、環境に優しい、農家向けの高濃度のバイオ液肥を生成できるようになります。当社装置の試運転は9月中旬から開始しており、12月頃までに稼働を予定しています。環境貢献と産業振興に資する取り組みとして、すでに他自治体からの問い合わせもいただいています。環境貢献技術を強みに事業領域を広げ、MORESCOグループの可能性を切り拓いていきます。



株式会社マツケン 代表取締役社長
小田 英次郎



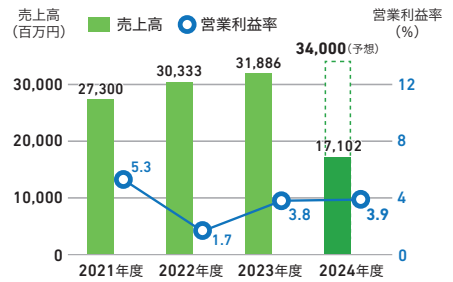
- ① 遠心分離機で夾雑物を摂取
- ② UF膜装置で液肥を濃縮
- ③ 電気透析によって必要イオンを採取

主な連結財務指標

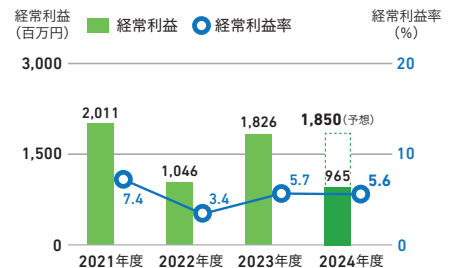
当中間連結会計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化へ向けた取り組みが進み、景気も緩やかな回復基調にあります。物価の高止まりは続いており、日米の金利政策への姿勢の違いから為替相場は大きく変動しました。世界経済においては、インフレ傾向にある中で、米国では、景気後退懸念の高まりがみられ、中国では、物価の下落および消費の回復の遅れが続いており、先行きは依然として不透明な要因が存在しております。

このような状況のもと当社グループにおいては、国内外での販売数量の増加および販売価格の是正により売上高は17,102百万円(前年同期比11.2%増)となり、営業利益は671百万円(前年同期比27.0%増)となりました。一方で、為替差益の減少により、経常利益は965百万円(前年同期比3.4%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は576百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

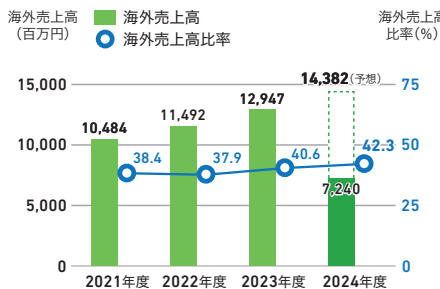
売上高と営業利益率



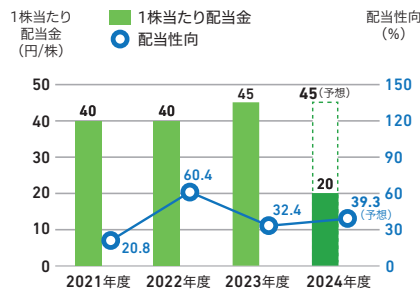
経常利益と経常利益率



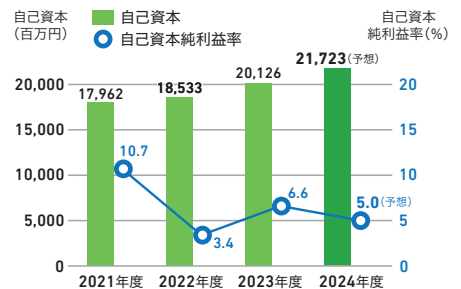
海外売上高と海外売上高比率



1株当たり配当金と配当性向

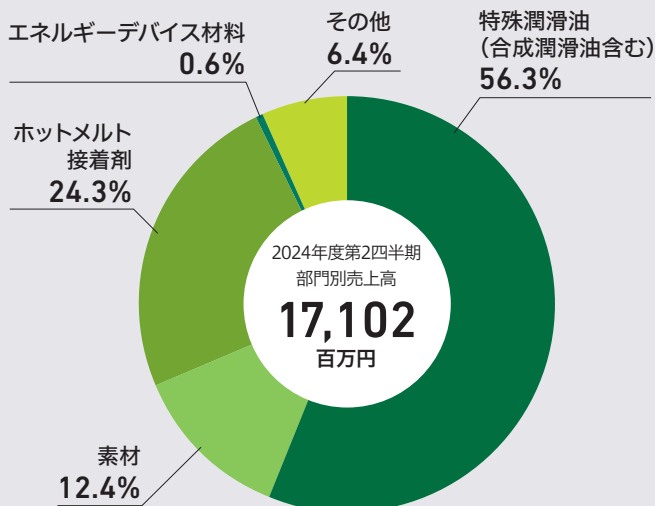


自己資本と自己資本純利益率(ROE)

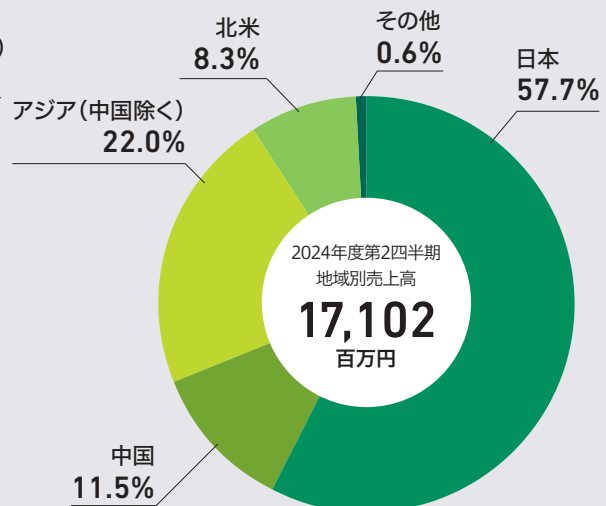


セグメント情報

部門別



地域別



株主優待のご案内

当社では、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、投資の魅力を高め、より多くの方々に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を実施しております。今後も株主の皆様への期待に応えるため、さらなる成長を目指してまいりますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご優待内容

保有株式数および継続保有期間	優待の内容
300株以上かつ継続保有期間3年未満	QUOカード3,000円分
300株以上かつ継続保有期間3年以上	QUOカード4,000円分

毎年2月末日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式3単元(300株)以上を保有されている株主様を対象といたします。
継続保有期間3年以上とは、2月末日および8月末日時点の株主名簿に同一株主番号で連続7回以上記載または記録されることといたします。

※300株未満の株式を保有されている株主様が300株以上に買い増しされ、2月末日時点で300株以上を保有されている場合、300株未満の保有期間も継続保有期間に含まれます。

贈呈時期

毎年5月下旬に事業報告書に同封して郵送いたします。

〈当社株式の保有期間の確認方法について〉

ご自身が保有されている株式の保有期間の確認をご希望の株主様は、以下の番号にお問い合わせの上、株式の異動に関する証明書の発行をご依頼ください。

【連絡先】三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

【電話番号】0120-094-777(通話料無料)

【受付時間】土・日・祝日等を除く平日9:00~17:00

会社概要・株式情報 (2024年8月31日現在)

■会社概要

商号 株式会社MORESCO
設立 1958年10月27日
資本金 2,118,294,000円
従業員数 384名

■本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町5丁目5-3
電話078-303-9010(代表)
支店 東京支店/大阪支店
営業所 名古屋営業所
工場 千葉工場/赤穂工場

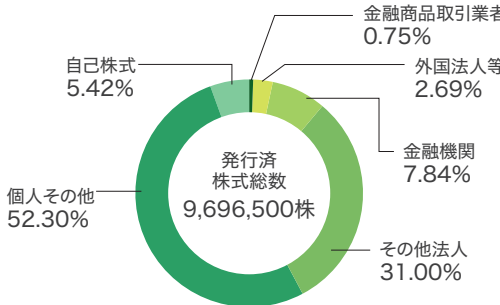
■役員構成

代表取締役社長 CEO 両角 元寿
取締役 専務執行役員COO 瀬脇 信寛
取締役 常務執行役員CTO 坂根 康夫
取締役 上席執行役員CFO 藤本 博文
取締役 執行役員 細見 次郎
社外取締役 富士ひろ子
取締役 常勤監査等委員 本田 幹夫
社外取締役 監査等委員 町垣 和夫
社外取締役 監査等委員 中上 幹雄
社外取締役 監査等委員 中塚 秀聡

■株式の状況

発行可能株式総数……20,000,000株
発行済株式総数……9,696,500株
株主数……15,212名

■株式所有者別分布状況



■大株主

株主名	持株数	持株比率
松村石油株	1,067,000	11.6%
コスモ石油ルブリカンツ株	503,000	5.4%
MORESCO従業員持株会	420,820	4.5%
日本曹達株	365,000	3.9%
スターライト工業株	326,000	3.5%
株みずほ銀行	250,000	2.7%
株三菱UFJ銀行	250,000	2.7%
大阪中小企業投資育成株	209,600	2.2%
日本マスタートラスト信託銀行株(信託口)	201,900	2.2%
島貨易株	165,000	1.7%

※持株比率は自己株式(525,730株)を控除して計算しております。

株主メモ

■事業年度

3月1日~翌年2月末日

■期末配当金受領株主確定日

2月末日
(中間配当を行う場合)
8月31日

■定時株主総会

毎年5月

■株主名簿管理人および

特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社

■ご連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL:0120-094-777(通話料無料)

■上場証券取引所

東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行う
公告記載URL
<https://www.moresco.co.jp/ir/notice.php>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- ◎株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- ◎特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- ◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

